



オーストラリア直送レポート

Vol.7 2019.8.18 別れの日

- ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課 井口
吉備中学校 島本
- パーマストーン校グループ／教育委員会社会教育課 湯田・林

[ドリップストーン校グループ]

いよいよダーウィン出発の日を迎えました。集合時間が近づいてくると、研修生たちはホストファミリーと一緒に、大きなカバンを持ってやってきました。研修生たちは学校で集合してくる時と違い、少し寂しそうな様子でした。集合すると、ホストファミリーと最後の時間を楽しんでいました。ハグや握手をしたり、一緒に写真を撮ったり、笑顔で会話をしたりと、それぞれが本当の家族のように時間を過ごしていました。全員が集まった後、ドリップストーン校とパーマストーン校のお世話になった先生方が見送りに来てくれたので、各班の団長が中心となり、お礼を言いました。この現地研修で研修生たちは、様々な貴重な体験をしました。ダーウィンに到着した時と今日出発する時では、研修生たちの表情が変わったと感じます。それは、研修生たちが、慣れないホストファミリーとの生活や、現地学校での生活の中で得た、経験から来ていると思います。ホストファミリーとの生活では、緊張の中、空港で初めて出会い、今日まで本当の家族ようになるまで、距離を縮めることができました。また、学校生活の中では、日本の授業との違いを学んだり、現地の生徒と交流を深めることができました。現地研修では、研修生全員が積極的に行動し楽しんでいる印象を受けました。



そして時間になりホストファミリーたちと別れ、出発の手続きを行いました。手続きを終えて、ゲートが開くまでの間、研修生から「日本食が食べたい」や「日本の家族に会いたい」という声が聞こえてきました。研修生たちには現地研修の経験を、改めて日本の生活を見つめ直す機会にして欲しいと思います。毎日家事をしてくれる家族や、親身になってくれる先生や地域の方々など、日常の些細なことも、この現地研修をする前と後では感じ方が違ってくると思います。

帰りは、シンガポールの乗り継ぎの間に、市内見学をして夕食をとりました。シンガポールの空港から外に出ると、日本のように湿度があり、ダーウィン市の気候とは違いました。また、街並みも高層ビルやホテルが立ち並び、夜でも明るい街でした。見学はマーライオン公園やマリナーベイサンズで行われる噴水ショー「スペクトラ」を見学しました。シンガポールでの見学でも、研修生たちは観光客が多い中、集合場所に時間通りに集まることができ、研修という意識を全員が持ち、行動することができました。



現地研修は今日で終わりましたが、事後研究発表まで2回の事後研修を行う予定です。研修生たちが現地研修で学んだことをしっかりと整理し、この海外研修が研修生たちの人生に役立つよう、最後までサポートをしたいと思います。来月には、ドリップストーン校とパーマストーン校の生徒たちが有田川町にやってきます。研修生たちが、現地の生徒たちに親切にもらった以上に、積極的にコミュニケーションを取ってもらいたいと思います。今回の研修生たちが中心となり、日本でも交流を深めることが、研修生たちにとっても良い成長の機会となると思うので、私も交流の手助けをできるよう、行動していきたいと思います。(井口)

空港まで送ってくれたホストファミリーとの雰囲気を見ていると本当にこの研修が実りのあるものになったなと感じました。最後まで笑顔で見送ってくださるホストファミリーや涙ながらに別れを惜しむホストファミリーなど、私たちが見ている心温まる光景でした。

それだけホストファミリーにも研修生にも心に残る何かを感じ、共有することができた海外研修になったのだと思いました。日本での事前研修、そして現地での研修を通して、英語でコミュニケーションをとることへの考え方が変わった研修生がきっとたくさんいると思います。全く見ず知らずのホストファミリーに1週間以上お世話になることへの不安を感じていた研修生もきっと各ご家庭での暖かい優しさに触れることでホームステイの素晴らしさを感じた生徒もたくさんいると思います。

その考えを大切に、来月オーストラリアからの交換留学生が来校した時には率先して彼らの研修の手伝いをし、今回感じた恩を行動で返して欲しいと思います。そのようにして吉備中学校とドリップストーン校の絆をより強いものにして、この海外研修という素晴らしい体験をこれからも続けていけるようにしてもらいたいと思います。

本当にこのような研修が出来たことに感謝しながら日々の生活に活かして、今後も国際交流という事に興味を持ち続けて欲しいと願っています。(島本)

オーストラリア研修 第11日目、最終日

(湯田)8月18日、午後1時、10日間一緒に過ごしたホストファミリーとの別れのときがきました。



一組、又一組とダーウィン国際空港に研修生たちが集まってきます。別れを惜しみ涙ぐむ研修生も居ます。見送りに来てくれているオーストラリアの生徒の中には、9月に日本に来る子もいました。来日するのを楽しみにしています。



全員そろったところで、お世話になったドリップストーン校、パーマストーン校の先生に研修生代表がお礼の挨拶をします。本当にありがとうございました。オーストラリアの先生に別れを告げ、出国手続きの開始です。出国審査を済ませ、定刻より少し遅れの16時にダーウィン国際空港を離陸しました。



9時00分シンガポール、チャンギ国際空港に到着です。帰りはシンガポールに入国し、市内の観光とレストランで夕食をとります。ここは現地のガイドさんが案内してくれ、バスで移動します。まずは、マーライオンの見学です。ゆっくりと見学したいところですが、入国審査に時間がかかった為、ここは5分間で見学です。研修生全員カメラを構え写真を撮っています。ここでの滞在時間がとても短かったのが心残りでした。



次はバスで少し移動し、マリーナベイサンズでスペクトラショー、光と水のシンフォニーを見学します。ショー開始直前に会場には入ったので大勢の観光客はショーが始まるのを待っています。21時、15分間のショータイムの開始です。噴水と光、大音量の音楽が研修生を包みこみました。

21時45分、遅い時間ですがやっと夕食です。

エビやイカなど海鮮の鍋料理をいただきました。オーストラリアでは肉料理が多かったので、温かい鍋料理が美味しかったです。

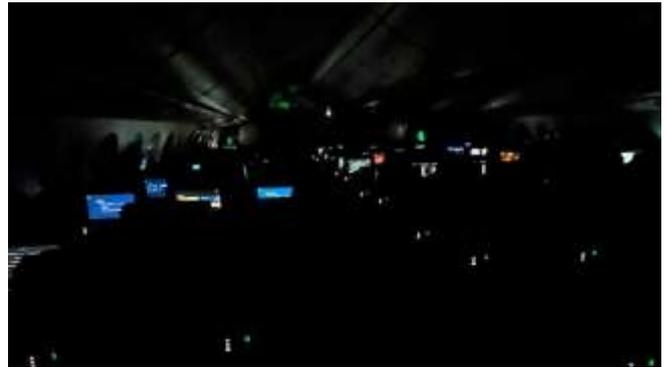




チャンギ国際空港に戻り、8月19日2時日本に向けシンガポール航空 B787 で出発し、5時間45分で関西国際空港に到着します。薄暗い機内で映画など観ている研修生もいますが、ほとんど寝ています。外が明るくなって7時には朝食が配られました。8月19日8時50分、関西国際空港に着陸しました。飛行機から降りた瞬間、オーストラリアで感じなかった蒸し暑

さが体を包み込みます。「あっ、日本に帰ってきた」と実感しました。

入国審査などスムーズに終わり、到着口に向かうと社会教育課長が迎えてくれます。赤バス、キャラバンなどに分乗し、有田川町に戻ります。和歌山が近くなると車の中で研修生は「山や！緑や！山が近い」などと話をしています。レポートを書いている私も「道が狭い！曲がりくねっている」オーストラリアとの違いを感じました。



11時有田川町役場、吉備庁舎前に到着です。保護者の方々、中学校の校長先生、教頭先生が出迎えてくれます。バスを降り、研修生を集めスタッフから連絡事項を伝え、解散です。保護者のもとへ研修生は帰っていきます。12日間のオーストラリア研修が終わりました。



本当にあっという間の12日間でした。研修生に「どうやった？」と聞くと「楽しかった！！帰りたくない」と返事がかえってきます。

日本を出発し、ホストファミリーの車に乗る研修生の後ろ姿を見送る時は「大丈夫よろか？ホームシックになれへんよろか？」など色々心配しましたが、大きなトラブルなく、無事元気に帰ってくる事ができ、同行したスタッフ一同、ほっとしました。

これで12日間のオーストラリア研修は終わりですが、この貴重な体験を今後何かに活かしてくれたらと思います。一回り大きくなった研修生30名が胸を張って家に帰ります。保護者の皆さん、研修生の話を一っぱい聞いてあげてください。これまでのレポートにないホームステイ先での話を話してくれると思います。

このつたないレポートをお読みになっていただきありがとうございました。私事ですが、今年4月に社会教育課の配属となり、オーストラリア研修の担当だと告げられた時は、本当にビックリし、不安しかありませんでした。しかし、終わってみると、研修生の成長を間近で見ることができ、大変良い経験をさせて頂きました。ありがとうございました！

(林) 現地研修10日間を締めくくる最終日。帰国の日のダーウィンのお天気は、研修生たちが研修の地ダーウィンに初めて降り立った日と同じ様な晴天でした。日差しに当たると、肌がジリジリと焼けるのが分かるような気候です。オーストラリアダーウィンにきてからの、荷物を慌たたくスーツケースに詰めながら、研修生がみんな元気に空港に現れるのか、パスポートなど忘れ物は無いのかと気になっていました。研修生が空港に現れる予定時刻は、午後1時半だったので午後1時には空港に到着するように向かいました。集合時間が時間に近づくとつれて、ホストファミリーに送られて研修生たちが集まってきました。研修生たちは、週末に分かれてから少し日焼けしたように見えました。また、なにか一人一人がまた週末で得たような目でした。他の研修生を見つけると週末の出来事や、DS、PSグループと別れての現地校研修だったので、有田川町中学生研修団としての全体での再会は久しぶりでした。その分いつもに増して研修生の元気そうな姿に見えましたが、どこか寂しそうな雰囲気もまとっていました。

空港でのホストファミリーと研修生の様子をみていると、別れの会話を交わしたり、何度もハグしたり写真を撮ったりしていました。研修生一人一人がホストファミリーとそれぞれの形で時間を過ごしていました。研修生の中には、ホストファミリーと会話している中で涙を流し、ハグして別れを惜んでいる研修生もいました。そんな様子を見ていると、研修生達がオーストラリアと言う異国の地で研修生活を過ごす。この非日常生活で研修生たちが安心して生活出来たのも、現地のホストファミリーの方々の温もりや、献身的なサポートがあったからこそ、研修生たちは本当の家族の様な関係が築けたのだと思います。

異国の地から来た中学生を、家族間、生活習慣、宗教などが異なる中で家族と言う、最小のコミュニティーであり、最も重要なつながりを身を持って感じる機会を頂いたホストファミリーに感謝したいと思います。研修生たちの経験や思い出を持って空港のゲートを通りました。

日本への帰国の途中、アジアの発展国家であるシンガポールでの現地研修を行いました。シンガポールのチャンギ国際空港は、アジアのハブ空港でオーストラリアへの乗り継ぎ時は空港内のみで見学でしたが、外から見る空港はさらに迫力がありました。シンガポールの中心地は、太陽と自然残る港町ダーウィンの風景とは異なり、シンガポールは人工的で近代的な街並みに研修生たちは、カメラを右に左にひっきりなしに向けていました。巨大資本の高層銀行ビル群や独立前の建物が大小混在し、F1レースの会場など現地ガイドの方からシンガポールの成り立ちを含めて丁寧に説明を頂きました。また、市内見学の後、夕食で「スチームボート」と呼ばれる鍋料理をいただきました。日本のなべ料理とは、似ているようでどこか違う外国料理に研修生たちのお箸も進んでいました。

オーストラリアノーザンテリトリー準州ダーウィン市、パーマストーン市（シンガポール含む）での現地研修もケガや病気など大きなトラブルもなく無事に完了し、研修生たちは帰国の途に着きました。

今回の現地研修を終えて研修生の皆さんは、家族や友達など身近な人にどんな事を伝えましたか、また伝えたいですか。研修生一人一人その伝えたいことは、同じ時間を過ごしてもきっと違うと思います。

オーストラリアで色々な違いを感じたと思います。その違いを知り理解し、自分の考えをどう伝えるかは、今後のみなさんの人生でとても重要になると思います。

今回の研修に参加する中で、オーストラリアの人からたくさんの「thank you」という言葉を聞いたと思います。みなさんもこの感謝の気持ちを、日常生活で今以上に意識して欲しいと思います。この中学生海外研修の主人公はみなさんです。しかし、みなさんの研修を本当に多くの方が関わって、様々なサポートをして下さいました。みなさんが過ごす日常生活で、誰かが自分のためにしてくれる事を、当たり前と思わずに研修生の皆さんが研修で学んだ感謝をあらわす気持ちをもって過ごして欲しいと思います。

この研修では現地に、みなさんが普段使っているスマートフォンが使用できなかったと思います。しかし、オーストラリアで現地の人々と交流する中で、不便はありましたか。

確かに、グーグル翻訳があればや、SNSアカウントの交換が簡単に出来たと思うかもしれません。

しかし、無かったからこそお互いに相手の言葉をしっかり聴いたりジェスチャーで伝えようとしたのではありませんか。写真をとる行為にしても、SNS用の写真をとるのではなく、自分自身の目で現地で見えて感動した景色、現地の友達との写真をカメラにおさめたのではありませんか。

この中に、研修生のみなさんが日本と異なるオーストラリア、現地に行って生きた体験する意味があると思います。

日本での日常、オーストラリアでの非日常その中で、それぞれを体験したうえで多様性を受け入れ、その中で自分自身が良いと感じた事、それを自分自身で少しずつでも実行して欲しいです。

30人の個性豊かな研修生のみなさんと、6月の事前研修をはじめ現地研修で12日間共に過ごせたことは、私自身にとっても大きな経験であり刺激になりました。

今日でオーストラリアでの現地研修が終わりましたが、研修生のみなさんが得た体験や思い出、人とのつながりを今後も大事に過ごしてほしいです。